



国際化の最前線から



6歳でもわかる日本語教材と 指導法を模索して

認定NPO法人 プラス・エデュケート 理事長 森 顕子

日本語指導が必要な子どもが群を抜いて多い愛知県

私たちは外国ルーツの子どもへの日本語・教科学習支援と教材研究・作成、日本語教師育成などの事業を行っています。私たちが活動している愛知県は、自動車関連の製造業を中心にあらゆる分野で外国人が就労し、かつ定住者が多いため、外国ルーツの子どもの数もとても多いところ です。

2022年に発表された文科省の調査では、日本語指導が必要な子どもの数は全国に約6万人。2021年までの10年で1.7倍となり、増加しています。中でも愛知県は1万2,000人もの子どもの指導を必要としており、他県に比べ、群を抜いて多くなっています。しかし、すべての子が十分な日本語指導を受けられているとはいえません。

私たちは活動当初から、6歳～18歳くらいまでの子どもに特化して支援をしてきました。大人の場合はそれぞれに来日目的があり、必要であればさまざまな方法で日本語を学ぶことができますが、子どもはそうではありません。学校では日本語が話せなければ友達ができず、孤立してしまいがちで、日本語で「読み書き」できる日本語力がないと学習にはついていけません。さらに、滞在年数が長くなれば、日本での進学や就職を考えなくてはなりません。

このようなことから、子どもたちへの日本語教育や学習支援は、大人より急を要し、より重要だと考えたためです。



子どもたちは楽しく、話す・聞く・読む・書くの4技能をバランスよく伸ばします

試行錯誤を重ねた独自教材と指導法

さて、私が子どもに日本語を教えるようになり、困っ

たのは教材でした。大人の学習者向けの教材はたくさんありましたが、子ども向けのものは少ない上に、文字が読めない子どもには難しく、思うような成果が出ませんでした。さらに低学年の子どもでも楽しく学べ、興味関心をわかせるような工夫が必要でした。そこで、自分たちで教材を作成し、教育成果が出る指導法を模索するようになりました。



教材（あのね・いいね）



教材（語彙）

試行錯誤を重ね、10年をかけてやっと一つの形にたどり着くことができ、2021年に教材をまとめ、4冊のテキストと語彙集ができました。あと2冊が加わる予定です。この教材や指導法をできるだけ広く指導者の皆様に知っていただき、現場で使っていただけるようにしたいです。また、指導者が増えれば、サポートを受けられる子どもも増えます。今後は、指導者の育成という面でも貢献したいと考えています。

プロフィール

森 顕子（もり あきこ）

愛知教育大学総合科学課程日本語教育学科卒業後、大手進学塾で10年ほど人気講師として活躍するが、結婚を機に退職。その後、中学・高校講師を経て愛知県にUターンした際、外国ルーツの子どもたちの問題を知る。その解決を図るため一念発起し、1人で活動を始める。2012年4月から現職。ここ数年は子どもに教えるだけでなく、指導者の育成に力を注いでいる。